

6 - 7 跡津川断層沿いの歪計で観測されたクリープ現象について

An episodic creep event observed by 3 component strainmeters along the Atotsugawa fault

地 質 調 査 所

Geological Survey of Japan

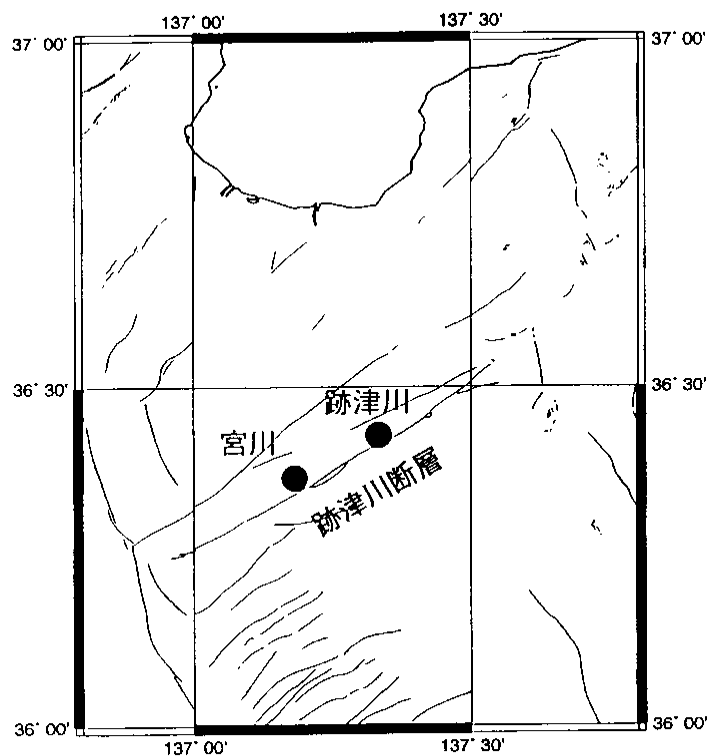
1. 観測概要

地質調査所では跡津川断層沿いの宮川・跡津川において地殻活動総合観測設備を整備し観測を開始している（第1図）。宮川観測点は跡津川断層のロック部，跡津川観測点は跡津川断層のクリープ部に位置すると考えられる。

2. 観測結果

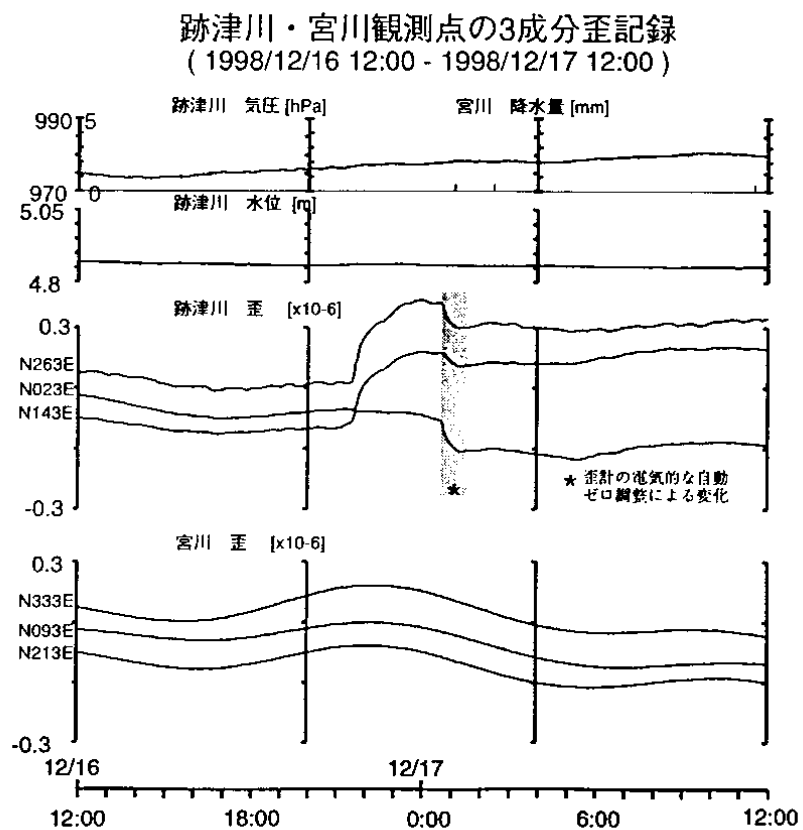
第2図に跡津川・宮川観測点の3成分歪計記録を示す。1998年12月16日夜に3成分歪計記録に有意な変化が跡津川観測点に見られた。変化は数時間にわたって続いた。この変化は1) 跡津川断層のクリープ部に当たる跡津川観測点にのみ観測され，2) 跡津川断層のロック部に位置する宮川観測点観測点では観測されないこと，3) 使用している3成分歪計はいわゆる坂田式であり磁気嵐の影響とは考えられないこと，4) 対応する大きな地震はない，ことから跡津川断層の間欠的クリープによる可能性がある。

（伊藤久男・桑原保人・伊藤忍）



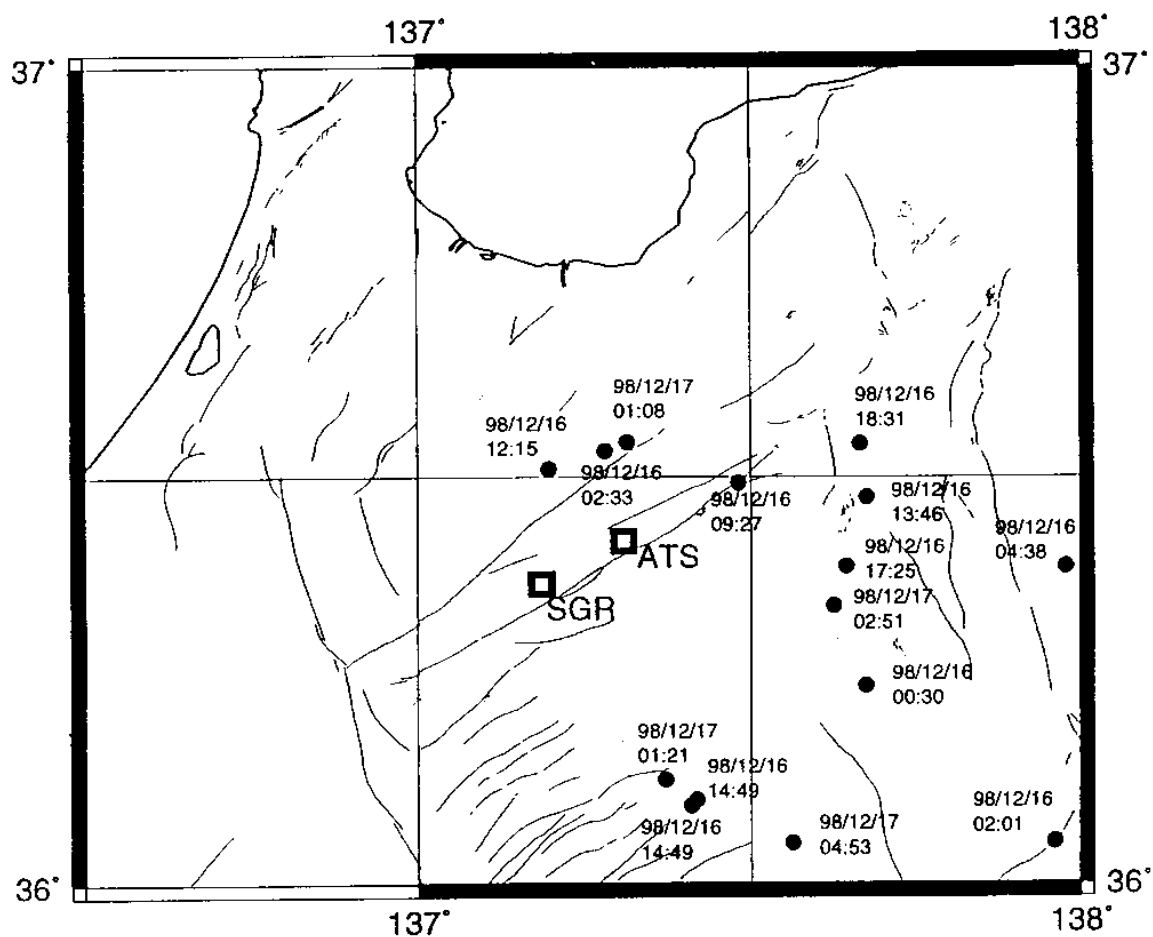
第 1 図 跡津川断層沿いの宮川・跡津川における地殻活動総合観測点位置

Fig.1 Location map of the observation boreholes at Miyagawa and Atotsugawa at the Atotsugawa fault.



第 2 図 跡津川断層沿いの跡津川・宮川観測点における間欠的クリープによる 3 成分歪計における歪変化

Fig.2 A temporal strain change due to episodic creep along the Atotsugawa fault.



第3図 1998年12月16日～1998年12月17日の跡津川断層周辺の地震の震央分布。図におけるマグニチュードは最大1.9，最小0.6。

Fig.3 Epicentral distribution around the Atotsugawa fault from December 16, 1998 to December 17, 1998.